

令和3年度
学校関係者評価報告書

リリーこども&スポーツ専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価について

リリーこども&スポーツ専門学校は、令和4年7月15日に「令和3年度学校評価報告書」の結果をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

2. 学校関係者評価委員

1) 業界企業団体関係者

能本守康 株式会社ケアファクトリー 代表取締役
田仲一徳 リリースポーツクラブ 校長
佐藤正和 株式会社文化メディアワークス 代表取締役
鈴木研介 リリーベール小学校 副校長
大図幹郎 茨城県キャンプ協会 事務局長

2) 卒業生

羽生美穂 リリーの森幼稚園 園長
森田貴代美 ヴィクトリアナーサリー 園長

3. 評価領域ごとの学校関係者評価・意見

1) 教育理念・目的・人材育成像

- ・「夢と志を持って新しい価値を創造する人材の育成」を教育理念とし、専門的な知識と技術を備えた人材の育成に努めている。
- ・実習により現場での経験をさせることで即戦力となる人材の育成に努めている。
- ・業界と連携し、現場で求められる人材の把握に努めている。
- ・学生の社会的資質や行動力を高めるための環境づくりが求められる。
- ・教育理念、教育目標、人材育成に関して明確に定められており、適正である。今後、職員及び学生への教育の在り方、評価方法についてさらに深めていくことを期待する。
- ・学校の理念や教育の在り方について定期的に点検、評価し、達成状況をチェックする等、PDCA サイクルでの見直し改善が求められる。今後の取組について継続的に検討されたい。

2) 学校運営

- ・運営方針、事業計画を策定し、職員間で共有されている。
- ・組織図を明確に示しており、意思決定機能が明確にされている。
- ・新たに学生管理システムを導入するなど、業務の効率化に努めている。
- ・社会的ニーズとして ICT や AI(人工知能)などの導入が進む中で、時代に対応できる教育環境の推進が求められる。通信環境の整備等を進めた点は評価できる。現場の即戦力となりうる人材

育成を目指した最新の情報を共有するなど、今後さらなる充実に努められたい。

3)教育活動

- ・教育理念に基づき適切に教育課程が作られており、教育活動も適切に行なわれている。
- ・業界のニーズの把握には努めているようだが、中長期的な業界の動きを見据えた人材育成について再検討する時期にあるのではないか。
- ・学生の成績評価、単位認定の基準は明確であり適切に運営されている。
- ・教育活動の充実を図るため、カリキュラムの作成及び見直しの実施、科目間の横断的、効率的な学びのための教員間の密な連携や情報共有を図るなど連携体制の確立を検討されたい。
- ・実務経験のある教員を確保している点は評価できる。今後は現場のニーズに即した新たな手法による指導ができる教員の確保にも努められたい。
- ・コロナ禍によりさまざまな人との直接的な交流や社会体験が難しい状況であるが、こういった取り組みは学生を育てるために大変重要である。今後はそのような機会が増えることを願いたい。
- ・卒業生への情報発信など、卒業生への支援の充実も図られたい。

4)学修成果

- ・例年高い就職率を維持している。個別指導に注力していると聞いており、職員の努力がうかがえる。
- ・健康スポーツ学科の資格取得率が資格対策講座の強化などの対策により向上した。今後も継続し更なる合格率アップに努められたい。
- ・退学率を低減させるために個別面談や保護者との連携をされていると聞いている。今後も継続するとともに、さらに退学者を減らすための組織づくり等を検討されたい。
- ・退学者数を減らすため、学内研修等において具体的事例から事例研究等を行っている点は評価できる。今後も継続し学習面・生活面での学生指導に役立てていくことを期待する。
- ・資格取得が目的とならないよう、広い視野に基づいた教育体制を維持されたい。さまざまな学びの中で資格も取得できるというスタンスが重要である。
- ・分野における現場とのネットワーク強化は重要な課題である。地域に根差した学校運営のためにも多くの事業所との連携を期待したい。

5)学生支援

- ・学科、学年担当制が学生の学習、就職、生活面等の総合相談窓口として機能している点は評価できる。
- ・年間3回の保護者会の開催に加え、学生に問題が生じた場合の保護者との連携体制が整えられており、家庭と協力した教育に努めている。
- ・卒業生への情報発信等、卒業生の支援、潜在的有資格者への支援等に努められたい。
- ・特に外国人留学生は厳しい環境の中で学びと生活に励んでおり、生活全般も含めた対応が期

待される。

・まだまだ新型コロナウイルスの感染が懸念される。学生に気の緩みが出ないように、継続した感染対策を期待したい。

6)教育環境

・業界と連携し、実習施設の確保に努めている。またコロナ禍により海外研修について実施が難しくなっている。国内研修への切り替え等を検討されたい。

・教育に必要な施設・設備は整えられているが、一部老朽化しているものが見受けられる。機材の入れ替え等を検討されたい。インターネット環境がすべての教室に整備され、通信環境が改善された。今後のICTの活用等を踏まえ、更なる環境整備を検討されたい。

7)学生の受け入れ募集

・ホームページのみならず、SNSを活用した情報発信に努めている。また、オープンキャンパス、保護者向け説明会、個別相談会など、年間20回以上のイベントを開催しており、学生募集に努めている。またオンラインによる説明会等、新しい取り組みもされている。

・オープンキャンパスで学生スタッフの活躍の場をより多く設けるなど、教育内容のアピールに努力されている。今後も継続されたい。

8)財務

・中長期的に財務基盤は安定しており、予算、収支計画等も妥当である。

・定期的に会計監査を実施しており、適切に行われている。

・少子化の進行によりますます教育業界の厳しさが増す中で、今までの概念にとらわれず、次世代に向けたビジョン策定が重要である。

9)法令等の遵守

・各種資格養成課程、および専修学校専門課程の設置基準を遵守し適切な運営がなされている。

・個人情報保護について、守秘義務等の確認をしている。また誓約書等を整備し、さらに強化をすすめている。

・法令と合わせ倫理的な遵守を含め、作業工程のチェックやマニュアルの作成等、業務の「見える化」に努められたい。

10)社会貢献・地域貢献

・アリーナは幼児体育のスクール会場として貸し出している。

・コロナ禍により、近郊で実施される予定だったイベントが中止となるケースが多くなっている。それに伴い学生がボランティアとして参加する機会も減少している。今後は多くの学生がボランティア活動に参加できるような機会を設けると共に受け入れ側との連携強化に努められたい。